

1. 活動目標の設定

本分科会は、分科会長以下15名の会員によって、本年度の活動は運営されている。昭和62年度の活動を始めるにあたって活動テーマとしては下記のような候補が挙げられた。

人工地盤付橋梁 空間利用と採算性
 適用示方書と構造研究
新交通、モノレールの構造と適用の研究
新交通システム構造物設計指針のみなおし
新交通（モノレールは含まない）の試設計、設計便覧の作成
新素材を土木構造物に適用するための研究

討議の結果、過去2年間の研究成果を踏まえ、本年度は「新交通システム土木構造物設計指針（案）」による試設計計算書を作成し、既設計との比較や指針適用時の問題点等について研究することとなった。試設計のモデルとしては、3径間連続曲線箱桁橋を選び、構造幅の決定から床版、主桁（荷重の組合せ、断面、添接、補剛材、疲労検討）、横桁とほぼ前項目に渡り設計を行うこととなった。また、新交通構造物の現状での設計手法について整理を行い、指針の適用方法及び適用時の問題点等に付いても、数回予定される会合の中でデスカッションし、整理して行くこととした。また、その結果は出来る限り計算書中で解説や資料を加え、設計マニュアル的な意味もやや持たせることとなった。

2. 活動のスケジュール

前述の活動目標の下に、61年度の活動経験を生かし、62年度の概略のスケジュールとして以下を定めた。今年度は試設計ということで各委員の作業量がかなりの量となるため、原則として2ヶ月に1回の割で分科会会合を持つこととした。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 61年度の研究テーマの検討 | 1ヶ月 (62/4-62/5) |
| ② 設計条件の検討 | 1ヶ月 (62/5-62/6) |
| ③ 試設計作業 | 8ヶ月 (62/6-63/1) |
| ④ 設計結果の検討、まとめ | 2ヶ月 (63/1-63/3) |